

長野県出身プロ野球選手、新人の牧秀悟選手が大活躍

上原 昇 (2組)

11月1日(月)、プロ野球セ・リーグのレギュラー戦143試合が全て終了した。既に、ヤクルトスワローズが6年ぶりにリーグを制している。セ・リーグファンとして最後まで興味があったのは、個人タイトル戦だった。特に打撃部門では、最後の最後まで僅差の戦いが繰り広げられた。首位打者には、鈴木(広島カープ)が二度目のタイトルを獲得したが、3割1分台は物足りない。本塁打は岡本(読売ジャイアンツ)と村上(ヤクルト)、鈴木(広島)が争い、結局、岡本と村上が39本で分け合った、打点も岡本を村上が追い上げたが、1点差で辛くも岡本の手には。岡本は後半戦で大失速したが、2年連続2冠王となった。投手部門は、柳(中日ドラゴンズ)が安定した投球で最優秀防御率を獲った。タイトル常連の菅野(巨人投手)の不調が、巨人の低迷に直結した。タイトルといえば、これから最優秀新人に誰が選ばれるかが気になるところだ。今年のセは成績優良な新人選手が続々と輩出してシーズンを活気づけた。本HP(本年3月28日付「長野県出身プロ野球選手列伝」)でも、開幕前に活躍を期待する新人選手として牧秀悟(横浜DeNAベイスターズ内野手:長野県中野市出身、松本第一高校から中央大学を経て、21年ドラフト2位でDeNA入団)を挙げた。牧は新人ながら開幕戦でレギュラーデビューして以来、シーズン通して活躍した。特に、8月には新人としては公式戦初のサイクルヒットを達成。10月のヤクルト戦では、長嶋茂雄が持つセ新人最多二塁打記録を更新。10月22日から26日の間に放った5連続二塁打はプロ野球新記録。最終的には、打率3割1分4厘(3位で首位と3厘差)、安打数153は新人時の長嶋と並び、歴代新人の5番目になるとのこと。本塁打22本、打点71と新人としては文句をつけようがない成績で終えた。ただ、セには牧のほか、投手で奥川(ヤクルト)、栗林(広島)、野手では佐藤(阪神)、中野(阪神)など強敵新人王候補が揃っている。牧が新人王に選出されると、長野県出身プロ野球選手としては初の快挙(?)となる。

牧秀悟選手
(横浜DeNAベイスターズ)



以上

(21年11月2日記)